

令和7年度 第1回名護市総合教育会議議事録

日 時	令和8年3月16日（月） 午後4時から午後5時まで	
場 所	庁議室	
出席者	市長 渡具知 武豊 教育長 島袋 賢雄 教育委員 大城 千代子 教育委員 宮城 司 教育委員 玉城 武利	教育次長 仲井間 修 （教）総務課長 比嘉 出 （教）総務課総務係長 宮城 建 企画政策課長 宮城 聖 企画政策係長 久高 哲矢
欠席者	教育委員 松田 由絵	なし

1 議題

(1) 名護市教育大綱の策定について

2 内容

名護市教育大綱の策定について

（教育委員会総務課長から説明）

大城千代子委員

P4の施策1児童、子育て家庭への支援に「関係機関との連携」とありますが、民生委員と行政との勉強会を実施した際に、行政の中でも横のつながりを作り、連携を図っていくと伺いました。教育委員会も子どもや学校のことがありますので、ぜひ、早めに連携を強化していただきたいです。子どもや家庭が困っている際に、家庭や子どもたちの背景にある問題を一緒に解決していただきたいです。そして、問題の解決に取り組むためには「チーム」が大切ですので、しっかりと連携を図ってほしいと思います。

施策4の学校教育の充実に「高等教育機関との連携・協働」とありますが、「連携しているが、活用が少ない」との声もあります。1月に開催された名護市教育の日関連事業において、久志小学校（緑風学園）の発表にあったように専門的な団体の支援を受けることによって、子どもの興味が深くなり、学習へ向かう姿勢の変化につながるきっかけになると思います。

機関や団体との連携や活用は、各学校の取組にもよると思いますが、教育委員会から学校の方へ活用につながるような働きかけをすることにより、連携や活用を強化し、子どもたちが様々なものに興味を持って取り組めるような環境づくりができれば良いなと思いました。

P5の社会教育の充実において、支所に社会教育主事が配置されていたと思いますが、現在は配置がありません。支所の活動において社会教育主事は配置されていたときと比べ活動が減っているかと思います。コミュニティ・スクールの活用もありますが、コミュニティ・スクールは、学校が核となっております。支所が地域づくりの核になることによって、子ど

も会や地域での取組が活発になるかと思えます。各支所への社会教育主事の配置が難しい場合は、2つの支所ごとに1名を配置する方法もあると思えます。地域の活性化を図るためには、専門的な知識がある方が配置されることが必要だと思いました。

教育委員会総務課長

市の各部署の連携や名桜大学、沖縄工業高等専門学校、美ら島財団などの教育を支援していただける機関や団体とも連携を図り、教育委員会としてもどのような取組が実施できるのか検討していきたいと思っています。

社会教育主事の配置については、難しい面もあると思えますが、地域を活性化できるような支所との連携やコミュニティ・スクールの活用を含めて取組が実施できればと思っています。

大城千代子委員

地域に合った取組を考え、地域の方たちが参画できるような環境づくりをしていかなければ地域が衰退していくと思えます。

教育次長

施策1の不登校の支援について、現在、福祉部や子ども家庭部とも会議を実施しておりますので、連携が図られてきていると思えます。

玉城武利委員

P4の政策1の育みと学びのあるまちづくりの「関係機関との連携」として博物館の職員が学校へ出向き、学習支援や提案を実施しており、学校としても重宝していると思えます。

P4の施策1 児童・子育て家庭への支援について、中学生への支援が施策に含まれるのであれば「生徒」の記載も必要ではないでしょうか。

企画政策課長

施策に様々な取組の記載がありますが、その支援の対象の中には中学生も含まれており、「児童」の表現の中に中学生も含まれていると考えております。

教育長

福祉関係の定義と同様に「児童」としているかと思えます。

教育委員会総務課長

P6の施策5「交流の促進」とありますが「交流の推進」に文言を修正させていただきたいと思えます。

市長

施策5の3段落目に「交流促進」との記載がありますが問題ないでしょうか。

企画政策課長

「促進」と「推進」が混在して記載されておりますが、表題は「交流の推進」としております。

(議題についての協議終了)